**お知らせ**

平成１８年8月１８日

資料提供先
・岡山県記者クラブ

# 「第４回　集まれ！水夢（すいむ）きっず」の水夢きっず賞受賞
## ～ぼくたち、わたしたちの水上基地をつくろう～

赤磐市立軽部小学校の「ぼくたち、わたしたちの水上基地を作ろう」が、(財)河川環境管理財団※1 子どもの水辺サポートセンター※2主催による「第４回　集まれ！水夢きっず」企画部門を受賞し、下記のとおり現地での子ども達の夢が実現します。

この企画は、水上に基地を作り、子ども達が基地遊びをしたり、川流れを体験しようとするもので、軽部小学校の岸本先生が子ども達に水辺での楽しい活動を体験してもらおうと応募し、ユニークな企画として選ばれたものです。

「第４回　集まれ！水夢きっず」では夢部門（小・中学校生）６０件、企画部門（学校教諭、ＮＰＯ）１３件、計７３件の応募がありました。

記

１．実施場所 ： 旭川・中原川合流点付近・一の荒手子どもの水辺（岡山市中島）
２．実 施 日 ： 平成１８年8月２５日（金）　１０：００～１６：００
３．実施内容 ： 表彰式の後、基地作りや基地遊びを行ったり、川流れを体験します。
４．参 加 者 ： 軽部小学校５・６年生１６名、教諭等大人１０名程度

※１　(財)河川環境管理財団 ： 河川環境の整備・保全に関する総合的な調査研究、河川環境に関わる各種啓発活動、河川公園等の管理、河川整備基金の運営などを実施し、これらの事業並びに事業成果の社会還元をもって、河川環境の質の向上の確保・国民の生活環境の向上に寄与することを目的として昭和 50 年に設立された機関です。

※２　子どもの水辺サポートセンター ： 子どもたちの自然離れが進む中、水辺を環境学習や体験学習の場として活用していただき水辺に子どもの賑わいを取り戻そうと、文部科学省・国土交通省・環境省の３省が連携する「『子どもの水辺』再発見プロジェクト」により平成１４年７月に設立され、現在は農林水産省も加わり、子どもたちが安全に充実した活動が出来るように様々な支援活動を進めています。（URL　http://mizube-support-center.org/）


お問い合せ先

赤磐市立軽部小学校　教諭　岸本　勝義
ＴＥＬ　（０８６）９５７－３００２

(財)河川環境管理財団　河川環境総合研究所
研究第一部次長　鈴木　茂樹
ＴＥＬ　（０３）５８４７－８３０３
ＵＲＬ　http://www.kasen.or.jp/

国土交通省　中国地方整備局　岡山河川事務所
副　所　長　宮崎　貢（内線　２０５）
調査設計課　上橋　昇（内線　３５１）
ＴＥＬ　（０８６）２２３－５１０１（代）
ＵＲＬ　http://www.okakawa-mlit.go.jp

参考資料

# 軽部小学校「水夢きっず」企画について

## １．コンセプト

最近では川で自由に子どもたちが遊べなくなった。年に１度くらいは川で思いっきり遊び、その中で川を知ることができたらすばらしいなあという気持ちがずっとありました。

また、子どもたちと川の活動をする中で、机の上ではわからない、「川に行くからこそわかる発見」がたくさんあり、それが子どもたちのよい学びの場になっていることもよくわかりました。

そこで、「今まで川でやったことのないことをしてみよう」ということで、「水上基地を作ろう」という企画をたちあげました。

６年生８人が基地のプランを出し合い、８人全員のアイデアがどこかに入るように、全体のプランを作りました。

当日の活動は、５年生８人も参加し、ともに活動します。

## ２．水上基地のプラン

別紙参照

## ３．活動内容

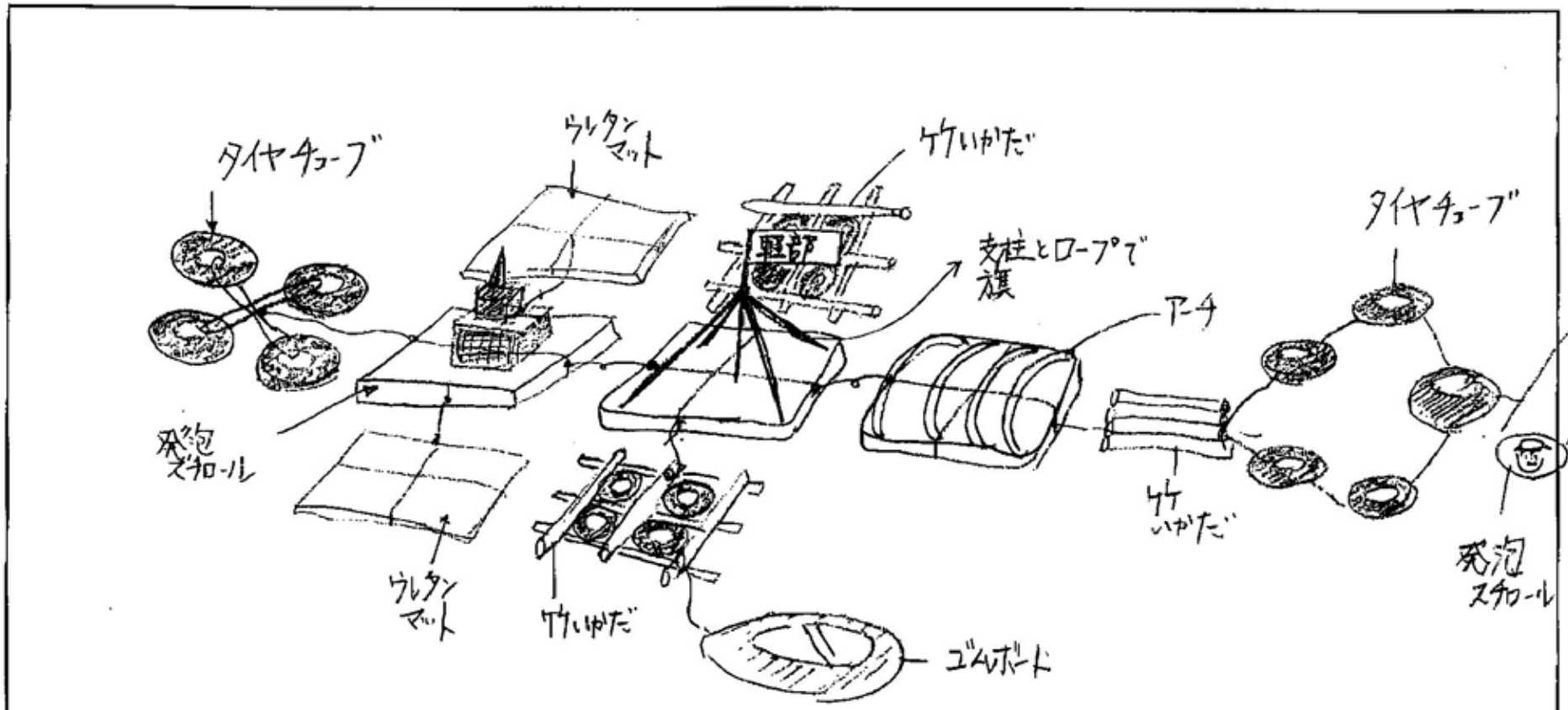
①基地の組み立て
②川の中をのぞいてみよう
③水上玉入れ
④いかだ遊び
⑤自由遊び
他に、サポートセンターの方で、川流れ体験

赤磐市立軽部小学校
担当　岸本　勝義
Tel　086-957-3002
Fax　086-957-4283

「軽部小学校水夢きっず」

# 水上基地計画プラン

名前（　　）




**用意する物**

タイヤチューブ（16）　ケケ（16）　発泡スチロールマット（3）　ウレタンマット（2）　筒状発泡スチロール（1）
ロープ（100mm×1）　ダンボール模型（1）　ゴムボート（1）　旗、支柱（1）

参考資料

平成 18 年 8 月 17 日
河川環境管理財団

## 第４回　集まれ！水夢きっず　実施計画案

# 【企画部門】

**１．受賞者**：「ぼくたち、わたしたちの水上基地をつくろう」
岡山県赤磐市立軽部小学校　　岸本勝義先生
岡山県赤磐市今井１００
TEL：086-957-3002

**２．実施日程** ： 平成１８年８月２５日（金）

**３．実施個所 ：** 旭川・中原川合流点付近（一の荒手子どもの水辺）

**４．スケジュール案**
１０：００　参加者現地集合（岡山県岡山市中島）
１０：１０　表彰式
１０：２０　安全管理について（講座）
１０：４０　基地作り
１２：００　昼食
１２：４０　基地遊び
１４：００　川流れ体験（事前に再度安全について指導）
１５：００　着替え・後片付け
１６：００　解散

**５．参加者**
軽部小学校　５・６年生　…１６名
教諭等大人　…１０名

**６．実施体制案**
（財）河川環境管理財団　子どもの水辺サポートセンター　…４名
国土交通省岡山河川事務所　…数名
NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会　トレーナー　…１名

## ７．資機材

・ライフジャケット（子ども用）　…２０着
・ライフジャケット（大人用）　…２０着
・ヘルメット　…２０個
・スローロープ　…５本
・タープ（軽部小学校）、救急道具、工作道具、クーラーボックス２台

## ８．参加者持ち物

・濡れても良い服装および水着
・濡れても良いスニーカー等（サンダル不可）
・その他（日焼け止め、タオル、着替え、飲み物、お弁当等）
※着替えはバス内もしくはタープ内で行います。
※トイレは河川敷の仮設トイレを使用。

## ９．地　図

次項参照

## 10．その他

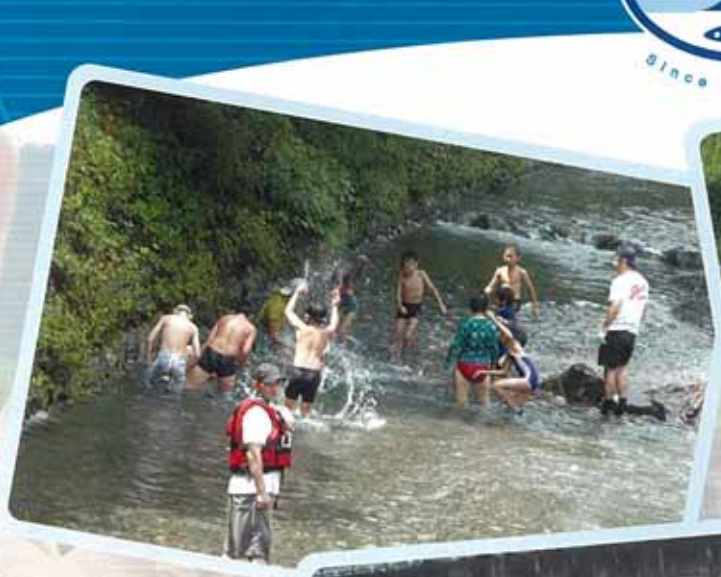
水上基地設置場所及び川流れ体験の場所については、前日の水量により、変更する場合があります。

実施箇所：岡山県岡山市中島
旭　川
明
星
堰
一
の
荒
手
百間川
川流れ体験
表彰式会場
基地設置場所
中原川

Center for Supporting Children's Waterside Activities

# 子どもの水辺サポートセンター

Since 2002 July



水辺に
子どもたちの
賑わいを

財団法人 河川環境管理財団

http://www.mizube-support-center.org

# 子どもの水辺サポートセンターは、全国の水辺での環境学習・体験活動を支援しています。

## 子どもの水辺サポートセンター事業概要

当センターでは、各地で活動している団体に必要な支援策を調査・分析し、様々な支援策を展開しています。当センターが現在行っている支援策を紹介します。ぜひ、活用をご検討下さい。

| 当センターの支援策 ＼ 求められている支援 | 人 材 | 資金・資機材 | 安全の確保 | ノウハウ |
|---|---|---|---|---|
| 水辺の活動に関する情報の収集と提供 | ● | ● | | ● |
| 学習資料の配布 | | | | ● |
| 体験活動の支援 | ● | ● | ● | ● |
| 連携とネットワーク構築の支援 | ● | | | ● |
| 人材育成の支援 | ● | | ● | |
| 河川環境学習に関する調査研究 | | | ● | ● |
| 河川整備基金助成事業 | | ● | | |

注:河川整備基金は当センターではなく、(財)河川環境管理財団の所管

### 1 水辺の活動に関する各種情報の提供

当センターでは、ホームページやメールマガジンなどにより、川遊びや水辺の安全対策など水辺での活動に役立つ下記のような情報を収集・整理し、発信しています。

- 当センターの取り組み・活動に関する情報
- 各種助成制度に関する情報
- 指導者・人材派遣に関する情報
- 上記国の4省庁の施策・制度などに関する情報
- 講習会、シンポジウムなどに関する情報

メールマガジンは週1回、上記の情報を掲載して発信しております。配信を希望される方は当センターのホームページからお申し込み下さい。

また、ホームページでは、資機材などの借用申し込みを行ったり、全国の「子どもの水辺」登録箇所の一覧も見ることができます。

文部科学省・国土交通省、環境省の3省連携（農林水産省も協力）により、「子どもの水辺再発見プロジェクト」の推進・支援組織として、平成14年7月に、「子どもの水辺サポートセンター（以下：「当センター」という）」が設立されました。

## 2 学習資料の配布

全国の小中学生等を対象として河川環境や水質、水辺での遊び方、ワークシートなどを盛り込んだ冊子「水辺から学ぼう」をはじめとして、子どもたちの学習の手引きとなる様々な副読本等の資料の配布を行っています。

配布を希望される場合は、当センターまでご連絡下さい。（冊子は無料、送料のみ負担）

学習資料

●配布できる資料の例●

| | | |
|---|---|---|
| 「水辺から学ぼう」第1～4号 | 水辺での学び方を紹介 | 小学生&先生向け |
| 「川の本」No.1～59 | 川の自然、川との遊び、川にまつわる逸話などを紹介 | 小学生向け |
| 「川の水」 | 河川の水質について紹介 | 小中学生&先生向け |
| 「私たちと水」 | 日本や世界の水事情を紹介する冊子 | 高校生&先生向け |
| 「水辺の安全ハンドブック」 | 水辺での安全確保や危険回避手法を紹介 | 一般向け |

## 3 体験活動の支援

### 1 資機材の貸し出し

子どもたちの水辺体験活動に必要な、様々な資機材を無料で貸し出しています（送料のみ自己負担）。貸出申し込みは当センターホームページで受け付けています。

◆貸出できる資機材一覧（18年3月現在）

| 種　類 | 個数 |
|---|---|
| ライフジャケット（子供用） | 100着 |
| ライフジャケット（大人用） | 100着 |
| ライフジャケット（指導者用） | 15着 |
| ヘルメット | 70個 |
| スローロープ | 32本 |
| Eボート | 4台 |

※川の聴診器、缶バッチ製作機等も貸し出しています。

非常に安定した10人乗りの大型ゴムボートです。

川遊びに必須のアイテムです。

### 2 水辺を利用した体験活動等への支援〈「集まれ！水夢きっず」〉

小中学生の子どもたちが水辺でやってみたい夢、学校の先生や市民団体等の方々が子どもたちにさせてあげたい企画について公募し、当センターが素敵な夢・企画の実現のお手伝いを行うものです。

当センターでは、このような取組みなどにより、水辺での体験活動の支援をしています。

毎年4～6月頃に募集し、夏休み中に夢実現のお手伝いをしています。

第2回企画部門「水辺をイベント広場にしよう」

## 4 連携・ネットワーク構築の支援

### 1「子どもの水辺」連絡会議の開催

「子どもの水辺」をはじめとして子どもたちの体験活動をサポートする体制の確立・ネットワークの拡大を図るため、日本全国各ブロックにて、各都道府県の行政担当者、学校、市民が一堂に会して話し合う、「子どもの水辺」ブロック連絡会議を開催し、各都道府県における連携体制の支援をしています。

現在は都道府県レベルの連絡会議の支援を中心的に実施しています。

子どもの水辺ブロック連絡会議

### 2 人材や団体の紹介

「子どもの水辺安全講座」の様子（川流れ体験）

全国各地の川で活動するNPO法人や市民団体等で構成されている協議会「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）」との連携により、地域における川の指導者の紹介や「子どもの水辺安全講座」の開催等を行っています。

**「子どもの水辺安全講座」**

子どもが安全にかつ楽しく川や水辺で遊ぶための基礎的な知識を教え、水辺を活かした体験学習を実施する際のサポートを行うものです。

## 5 人材育成の支援

### 1 プロジェクトWET（水に関する教育プログラム）の普及

子どもたちが活動を体験しながら、水について楽しく学び・考える教育プログラム「プロジェクトWET（Water Education for Teachers:米国で開発）」の普及に努めています。

学校の先生や市民団体の皆様を対象に、エデュケーター講習会（子どもたちに教える人を育成）が各地で開催されています。

●アクティビティ（活動）の例●

**「驚異の旅」** 水の循環を学びます。

水の循環について学ぶアクティビティ

**「水のオリンピック」** 水の性質を学びます。

水の物理的性質について学ぶアクティビティ

講習会の開催状況など詳細は当財団のプロジェクトWETのホームページをご覧下さい。 http://www.kasen.or.jp/wet/

## 2 水辺を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会

総合的な学習の時間やクラブ活動などで、水辺を活かした活動を行っている学校等の取り組みや事例を紹介しています。

教育関係者、市民団体、行政関係者など多様な主体の方々が参加し、事例発表・意見交換により、それぞれの持つ課題の解決に役立てて頂きます。研修会にはどなたでも参加できます。

発表の様子

◆開催状況

| | 開催期日 | 会　場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 平成14年8月23-24日 | 幕張メッセ | 122名 |
| 第2回 | 平成16年1月24日 | 国立オリンピック記念青少年総合センター | 93名 |
| 第3回 | 平成16年8月10日 | 国立オリンピック記念青少年総合センター | 63名 |
| 第4回 | 平成18年1月27日 | 砂防会館 | 142名 |

## 3「世界子ども水フォーラム・フォローアップ大会」の開催

2003年3月、滋賀県等で開催された「第1回世界子ども水フォーラム」を受け、毎年世界や日本の水事情、水問題等に対する方策を公募により集まった子ども同士で話し合い、その成果を発表するフォローアップ大会を開催し、次世代を担う子ども達の育成を図っています。

フォローアップ大会は、2003年10月に広島で、2004年7月に宮城で、2005年9月に東京で開催されました。

滋賀での世界大会や、各フォローアップ大会に参加した子ども達がネットワークを構築し、各自の活動の質を高め、機会を増やし、さらにそのネットワークを広げて水に関心を持ち活動する子ども達が増えることが期待されます。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京（2005.9）

2006年3月、メキシコで開催された「第2回世界子ども水フォーラム」（「第4回世界水フォーラム」の一環）に東京大会で選抜された子どもたち7名が参加し、自分たちの地域で行ってきた活動の発表等を行いました。

第2回世界子ども水フォーラム〈メキシコ〉（2006.3）

## 6 河川環境学習に関する調査研究

### 1 河川環境学習活動の実態調査と分析とあり方の検討

「子どもの水辺」登録箇所や小中高等学校の総合学習時間における活動状況の調査、分析、課題抽出、解決策の検討などを行っています。

また、上記分析結果を踏まえ、河川環境教育のあり方の検討を行っています。

### 2 河川環境学習事例集の作成・発行

「子どもの水辺」登録箇所や小中高等学校の総合学習時間における活動の中から好事例を集め、事例集を作成しています。

17年度には学校での総合学習編、18年度には市民団体編を作成する予定です。17年度の事例集については、作成次第全国の小中学校に配布するとともに、希望者にお渡ししています。

### 3 河川環境学習手引書の作成

上記好事例などを踏まえ、河川環境学習のあり方の検討結果などについてとりまとめ手引書（ガイドライン）として発行することとしています。

## 7 その他の事業

### 1 子ども達が元気に遊ぶ全国の水辺の写真・情報を集め、WEB上で公開中（かっぱ天国）

日本には子どもたちが遊べるような素晴しい河川や沼・池等の水辺がまだまだたくさん残っています。当センターでは、そのような“子どもたちが遊べるような素晴しい水辺（かっぱ天国）”の情報や写真を集めて、ホームページ等で全国に公開しています。皆様の素敵な水辺を全国に発信しませんか。（毎年、5～9月頃に募集）

▲三重県安濃町安濃川

◀新潟県村松町仙見川

▲高知県いの町仁淀川

▲宮崎県延岡市友内川

### 2 当センターのオリジナル缶バッジを配布しています

「ヤマメ」「アユ」「オイカワ」「ハゼ」「テナガエビ」「カジカガエル」などのかわいいイラストが描かれた缶バッジを、当センターが主催、共催などする行事等で配布しています。

また、「子どもの水辺」登録団体が活動の際に子ども達に配布する場合には、当該団体にまとめて送付致します。

### 3 河川整備基金助成事業〈(財)河川環境管理財団が管理・運営〉

河川整備基金では、市民団体や小中高等学校等が行う河川環境教育等の「国民的啓発運動」、自治体や市民団体などが行う「環境整備対策」などに対し助成を行っています。河川整備基金助成事業の詳細につきましては、当財団ホームページ（http://www.kasen.or.jp）をご覧下さい。

# 「子どもの水辺再発見」プロジェクトとは？

## 1 「子どもの水辺」再発見プロジェクトとは

平成10年の政府の「川に学ぶ小委員会」の報告「川に学ぶ社会をめざして」を受け、河川環境学習に係る取り組みの展開を図るため、翌11年度より文部省・建設省・環境庁（当時）の3省が連携する「『子どもの水辺』再発見プロジェクト」が進められています。

このプロジェクトは、子どもたちの河川の利用を促進し、地域における子どもたちの体験活動の充実を図ろうとするものです。

各地域において、水辺を活用した体験学習や環境学習等の活動を行っている市民団体、行政、教育委員会、学校等が連携して「子どもの水辺協議会」を立ち上げ、子どもたちが安全に遊べるようなフィールドを「子どもの水辺」として登録すると、各省や当センターから様々な支援を受けられる制度です。

## 2 「子どもの水辺」に登録すると

### 1 登録団体間の連携の強化

行政と市民、学校等がより一体となって環境学習・体験活動に取り組むことができます。

### 2 当センターや関係各省からの支援を受けることができます。

当パンフレットに示す当センターからの支援が優先的に受けられる他、関係各省などからの支援が得られるようになります。各省などからの支援は以下の通りです（必ずしも「子どもの水辺」に登録されていなくても支援を受けられるものもあります）。

1）省庁連携「子ども体験型環境学習推進事業」（文部科学省）
2）こどもエコクラブ（環境省）
3）水辺の楽校プロジェクト（国土交通省）
4）子ども達の農業・農村体験学習推進事業（農林水産省）
5）「子どもゆめ基金」「河川整備基金」「地球環境基金」
（所管は各法人）による体験活動への助成

## 3 「子どもの水辺」登録方法

「子どもの水辺」の登録受付は当センターが担当しています。

### 1 「子どもの水辺協議会」の設置

水辺を活用した活動を行っている方々やこれから行おうとする方々を集め、「子どもの水辺協議会」を設置してください。

「子どもの水辺協議会」は、市区町村教育委員会（必須）、河川管理者（必須）に加え市町村、学校・PTA、市民団体（子ども会、こどもエコクラブ等を含む）などの方々の参加により構成していただきます。

事務局は協議会構成団体のうちいずれかの団体が担当してください。

### 2 「子どもの水辺」への登録

各協議会の河川管理者が、登録様式を当センターに提出し登録申請を行ってください。登録様式は当センターHPからダウンロードできます。

平成18年2月末現在

# 子どもの水辺サポートセンターにお寄り下さい

子どもの水辺サポートセンターはどなたでも利用できます。

ここには、水辺を活用した環境学習・体験学習に役立つ様々な資料やパンフレット、全国の河川についての副読本、映像資料などがあります。

また、修学旅行時に体験学習の一環として当センターを訪れ、学習することも可能です。

お近くに来られた際には是非お立ち寄り下さい。

子どもの水辺サポートセンター内観

修学旅行時の体験学習の一環として中学校の生徒さんが来訪

総合学習における調べ学習で中学校の生徒さんが来訪（近くの隅田川にて水質調査を実施）

## 地域拠点センター（例:北海道エールセンター）について

北海道帯広市にある「子どもの水辺北海道地域拠点センター（呼称:北海道エールセンター）」は「子どもの水辺サポートセンター」の地域拠点として地域における環境学習・体験活動の支援を行っています。

（財）河川環境管理財団

**子どもの水辺サポートセンター**

開館時間▶平日／10:00～17:00

休 館 日▶土曜・日曜・祝日・年末年始

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9

住友生命日本橋小伝馬町ビル2F

TEL 03-5847-8307　FAX 03-5847-8314

e-mail　msc@mizube-support-center.org

ホームページ　http://www.mizube-support-center.org/

■地下鉄日比谷線「小伝馬町駅」より徒歩1分　■都営新宿線「岩本町駅」より徒歩約8分
■都営新宿線「馬喰横山駅」より徒歩約7分
■JR横須賀線・総武線「新日本橋駅」より徒歩約5分　■JR横須賀線・総武線「馬喰町駅」より徒歩約5分

作成 平成18年3月